

## 分断される人の、根源的なつながり

NPO法人ザ・ピープル 吉田 恵美子さん



熱くお話いただいた吉田さん

### 交流の輪を生み出す

#### ■現在の活動

復興支援ボランティアセンターの運営と、オーガニックコットンプロジェクトの実行が主な活動です。復興支援ボランティアセンターでは「みんなの畑」で、地震津波被災者と原発避難者など様々な境遇の方に、交流の場を提供しています。オーガニックコットンプロジェクトは震災後にいわき市で始まったものですが、塩害にも強い作物ということで、主に浜通りの他市町村へも栽培の輪が広がっています。

### 本当の復興のために

#### ■現在に至るまで

いわき市は被災をしたことに加え、一挙に数多くの原発避難者を受け入れるという状況にありました。震災前、ザ・ピープルは古着のリサイクルを主に行う団体でした。震災直後に、まずこの地域にモノや人が集まる場所が必要だと、小名浜地区災害ボランティアセンターを開設しました。がれきが片付き復旧のめどは立っても、賠償の有無など住民間の溝が深まっており、このままでは終われないと感じました。そこから、本当の復興のためにと「復興支援ボランティアセンター」へと形を変え、現在まで継続しています。ショッピングモールでサロンもしました。でも、お茶を飲むだけでは表面的なつながりしかないんですね。一緒に汗をかける農作業に転換し、栽培した作物でそれぞれの郷土料理を作るなど、交流の場になっています。

また震災後、地元の農家さんの耕作放棄地が増えました。情報不足による放射能汚染の懸念から、食べ物の栽培が難しかったからです。栽培するものはないかと考えていた時オーガニックコットンに出会い、農家の方にも協力いただきながら栽培し始めました。コットンの栽培には、どの時期でも人の手が必要です。だからこそ、それぞれのやり方でかかわることができました。今では、みんなの畑やオーガニックコットンプロジェクトでの栽培以外でも、学校教育の一環として、20校でコットンの栽培をしています。これは服の産業教育・環境教育、そして震災当時をよく知らない小学校低学年などには震災教育にもなっています。



ふくしまオーガニックコットンプロジェクト

# 復興のパイオニア（復興女子編）

## 人と人の、根源的なつながり

### ■活動を通じての思い

扱いの違いごとにグループができると、対立してしまいます。グループではなく、名前ですべての関係を作るため、みんなの畑事業で垣根なく交流をする仕掛けをつくっています。農作業は人々のつながりにもなり、また、サロンでのお茶のみには来なかった男性に出番を作る、いいきっかけになりました。

今まで延23,000人がコットンプロジェクトに参加しています。多くの参加者がいる理由としては、あれこれお膳立てするのではなく、それぞれの関わりかたでみんなで作ることができたからです。

また、いわきは水俣公害に学ぶべきところがたくさんあると思っています。地域の主力企業が起こした公害であり、同じ地域に被害を受けた人と加害企業の関係者がいる。補償の問題、住民間の分断、外部からの差別問題など似通ったところが多く、12年から中高生を水俣へ派遣する事業を行ってきました。参加者は地域を大切にすること、相手の立場を理解することを肌で感じとったようで、熊本の震災の際は率先して街頭募金を呼び掛けていました。



オーガニックコットンで作られた「コットンベイク」新しい仲間も増えました



コットンベイクについてお話しされる吉田さんとスタッフの皆さん



改良版の糸車を紹介いただきました  
(※) チャルカはガンジーも用いた糸車



新しい糸で作られたランプシェード

## ご縁を形に

### ■これからの活動

コットンプロジェクトでは糸をつむぐことも始めました。2018年の3.11の日には、紡いだ糸で作ったランプシェードでライトアップをしようと思っています。  
(糸紡ぎの道具は、長野県の木工職人と共同でチャルカ(※)をコンパクトに開発。)

また今後、生活困窮に陥る方の数が増えることが懸念されています。次は衣食住の「食」支援として、フードバンク事業を行いたいと計画中です。どうしても困った人がまた歩き出すまでのセーフティネットになりたいと考えています。自立の計画作成中など手続きの空白の時期に要請があれば支援し、その後はまた、自らの力で生活していただきたいと思っています。

事業はすべて、組織内外、たくさんの方とのご縁と支えがあったからこそ続いています。復興支援など降ってくるお金や物資はいつか消えても、人とのつながりは消えません。

■吉田さんはフェイスブックで最新情報発信されています。[こちら](#)から入れます。